

いたちかわらばん

通刊63号 鮰川・狹川 / 川原番・瓦版 '13 秋号



【版画 宗森英夫】

【いたち川まつり】

いたち川まつり

いたち川月間イベントレポート3

いたち川まつり（8月18日）

8月18日（日）、猛暑のなかで行われた「いたち川まつり」は栄区役所裏の大いたち橋を拠点にして行われました。川の右岸に5張りのテントが張られ、参加する子ども達の受付をするテント、金魚すくい、ヨーヨーすくい、キーホルダーづくり、スーパーボールすくい、焼きたてパンなどの模擬店が並び、川に下りる階段下には笹の葉で飾られた手作り箱イカダが3隻つながっていました。

子どもを連れた若いご夫婦、イカダの船頭を手伝いをする若い男性達、川の両側の散策道から物珍しそうに川を覗くシニアの見物客、イカダ遊びに参加する子どもと父兄など大勢の見物客が見守るなかで「いたち川まつり」は始まりました。

実行委員長と区長の挨拶の後、参加者にゴミ袋が渡され、30分間の周辺のゴミ拾いを行ってからまつりが開始されました。階段を下った川辺の細長い広場（船着き場）には船頭さんと補助する若いお兄ちゃん達が川に入り飾られた箱形のイカダが2隻、舟型のイカダ1隻、初めて登場したカヤックのとも綱を持って待機しています。これらのイカダ以外にも今回新たに加わった小型カヌー2隻が水辺に浮かべられていました。

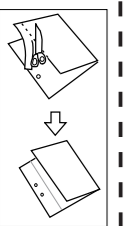
大きな箱舟イカダには子どもが8～10人、やや小型の2隻のイカダは5～8人が乗り、1隻に3～4人の若い船頭さんがヒモで結わいたイカダを川下に向かって50mを往復する。川は思っていたより浅く船頭の膝下くらいです。カヤックはこの川幅には長過ぎるのか、川のヨシを避けながら窮屈そうに曳かれていました。

小いたち橋の下では2隻のカヌーが年少の子どもを乗せ、お兄ちゃん船頭に曳かれ忙しく上流10m間を往復していました。大いたち橋上流側では一人用のオワン舟も登場していました。そして、左岸の岸辺では魚釣りの雰囲気を楽しむ偽装の鯉つりに子どもよりお父さんが夢中になっている光景も見受けられました。それぞれの場所にイカダを待つ子どもたちの歓声が水面に飛び交う暑い夏の日でした。（谷 溪）



切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



委員長 橋本哲芳

このイベントは楽しい川遊びを通して自然豊かな栄区のシンボルとも言える「いたち川」の魅力を知り大切にしていく気持ちをもつことをねらいとして、いたち川水辺愛護会、いたち川と親しむ会をはじめ、地区社協、子ども会、青少年指導員、スポーツ推進委員、警察学校、その他多くのボランティアにより企画・実施されています。いたち川を愛する人達が増えていくことを願いつつ、また来年の夏も元気な子ども達に会えることを楽しみにしています。（いたち川まつり実行委員会）

猛暑に襲われた今年の夏、八月十八日に栄区役所裏の大いたち橋・小いたち橋付近で第一回「いたち川まつり」が開催されました。昨年まで毎年「いたち川まつり」として二十二次実施されてきましたが、今年から遊歩道の清掃活動を組み合わせた新たな内容・名称になり、子ども約三百人、総勢六百人を超える多くの参加者で賑わいました。区長のご挨拶、遊歩道のゴミ拾いから始め、そして定番のイカダ遊びです。イカダに乗って川から見上げる景色は普段とは違った趣があり川辺の良さをあらためて実感します。今年には柏陽高校理科部の生徒さんがイカダ作りに挑戦し、川底を覗いて見ることができたユニークな仕掛けが考案されました。また、さかえスポーツくらぶの協力によりカヤックが登場し、初めての子供たちも懸命にパドルを振り回していました。イカダの他にも色々なコーナーがあり、暑さに負けず元気に遊び回る子ども達を見ていると、こちらまでパワーをもらって元気になります。

発行年月 2013年9月 通刊63号

発行：狹川 OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)
 OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
 TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
 栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
 TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
 (お便り・お問い合わせはこちらまで)

いたち川水源の探検（7月25日）

「上郷上流水辺愛護会」が、7月25日（木）に行っていたち川月間行事の一つ、「いたち川水源の探検」に参加しました。

上郷地区センターに集まったのは、主催者側の会員6人の他は筆者を含めて僅かに3人（ただ幸いにも内一人は小学4年生でした）だけだったのは大変残念なことでした。主催者側では、上郷地区センターの側に二つある橋の内の上郷橋の下に小さな湧き水を見つけました。そこから「長倉町小川アメニティ」～「横浜自然観察の森」へつながる遊歩コースを行けば、いたち川の源流域です。そこでさらに2箇所の湧き水を発見して源流の元を知り、これらを組合わせて「横浜自然観察の森」の自然を味わい、いたち川の水源地を考へる企画に仕立てたそうです。

さて、早速橋下にカワニナやクレソンを探したり、チョロチョロと湧く湧き水を手ですくってみます。小魚が見えて、イトトンボも飛んでいるのが見えます。地区センターの周辺が既に自然界豊かな環境なのです。参加した少年の興味は何か？ 大人達は専ら、少年の興味を引くために「ミズスマシの池」を眺めさせ、野鳥観察小屋の覗き窓からカワセミが飛来しないかと双眼鏡で探させたりしました。

少年の好きそうな「山の家」を探検してから自然観察センターに向かいました。入口に置かれていた紙芝居「かわせみキングくん」を少年に手伝わせながら上演してみたらとても興味深そうに聞いてくれました。昼食は観察センターの教室を借りて食べ、終わってから映像教材を見せて貰いながら森の自然や動植物について沢山学びました。センターのレンジャーは話も上手で、初めて聞くような説明でも聞き飽きさせず、小学生でも十分に理解できたと思えました。

水源の探検だけではない大切な自然を沢山勉強した一日でした。
(ピンテール)

きれいな水のいたち川で学ぶ2013（8月18日）

横浜自然観察の森はいたち川の源流域のひとつであり、鎌倉天園ハイキングコースを分水嶺とする森から流れる水はとてもきれいです。その水を受けて流れるせせらぎの散策路が長倉町小川アメニティです。この長倉町小川アメニティを舞台に、夏休みに小学生を対象として開催する子ども環境学習会は、おかげさまで10年連続して開催することができました。

8月18日（日）午前9時、はじめに愛護会代表の依田さんから学習会の歩みと感謝の挨拶がありました。2003年長倉町小川アメニティ愛護会の発足の際、清掃・除草活動に加え環境学習会を地域の世代交流の場とすることにしました。当時の栄土木事務所の担当が現 OTASUKE 隊副隊長の和久井さんでした。第1回は「長倉町小川アメニティフェスティバル2004」と銘打って開催し、いたち川 OTASUKE 隊の隊長の宗森さんと和久井さんには、以来、今回まで指導や学習会の講師としてご参加いただいています。

今年は記録的な猛暑を考慮し屋内での学習を中心に行なうことにし、長倉町小川アメニティでの生き物探しや記念植樹は終盤に組みました。

よこはま3R夢/ゴミ分別/地球温暖化の話は資源循環局栄事務所の宗像さんから三択問題が出され、子どもたちが回答して正解に拍手が上りました。ゲリラ豪雨による急な増水や流れに足をとられて溺れる危険など、川で遊ぶ時の注意は「いたちかわらばん62号」を使って栄土木事務所の角田さんから。紙芝居「かわせみキングくん」は横浜自然観察センターの瀧本さんから。草花の押し葉/押し花づくりは採取してきた現物で和久井さんから。根もつけてあるところが一味ちがうところです。長倉町子ども会のみなには1週間前にテキストと台紙を配付してあったので2名から作品提出発表があり拍手が湧きました。毎号の「いたちかわらばん第1面版画」の制作者である宗森さんから、絵（版画）が出来るまでの話、題材のいたち川の橋と地

域の歴史の逸話を聞きました。自然観察の森と隣り合わせの長倉町に出発するアライグマ、物置の引き戸を開けるようすのDVD収録上映は町内の木村さん。町内で採取された青大将のスッポリぬけがら分断なし162cmの珍しい展示は佐藤さん。面白かったり、びっくりしたり、好評でした。

屋外では水辺の生き物探しをしました。網を先に川に入れたためアブラハヤ、テナガエビ、モクズガニは隠れてしまい観察はできず残念でしたが、カワエビとカワニナは捕れました。小川アメニティの手押しポンプで水を汲みあげ水が冷たいことを体感した後、この水は本当の井戸水ではなく汚れがあり、そのまま飲んではいけないことを知ってもらいました。

「ながくら子ども環境学習10周年記念植樹」はモッコウバラ2本、サルスベリ1本、ウメ1本。子どもたちが植樹し樹木名札の裏に自分の名前を書きました。子どもたちが実のある人に成長するとともに、植えた樹木もしっかり花を咲かせてくれるよう祈念しました。

(長倉町小川アメニティ愛護会事務局 佐藤信夫)



紙芝居をして楽しく学びました



ながくら子ども環境学習10周年の記念植樹風景

石原の水辺について（訂正とお詫び）

いたちかわらばん62号（夏号）の

「石原の水辺はこのようになります」の記事で、石原の水辺は平成25年7月末の完成と紹介させていただきましたが、工事の遅れにより、オープン時期が同年10月中になる予定です。

楽しみにしていた皆さまには、ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんが、訂正とお詫びを申し上げます。

今後とも河川改修事業にご理解とご協力をお願いいたします。

(栄土木事務所 下水道・公園係)

そうだ！ホタル観にゆこう！

平均年齢七七歳の当シニアクラブでは、直ぐ近くにホタルの棲む瀬上の森があってもなかなかホタル観賞に出掛けることはありませんでした。一度、皆でホタルを観たい！という思いを今回実現できました。

「いたち川 OTASUKE 隊」という存在は知らなかったのですが縁あってそのアシストを受けることになりました。現地へ出発する前に、荒井沢のホタル愛護集団が利用している紙芝居を借りてきて上演し、ホタル観賞の注意事項も学ぶことが出来て大変有効でした。

当日は、本郷車庫前までバスで行き、そこから横堰まで歩いて OTASUKE 隊と合流し、時刻が早過ぎたので周辺の草花の講義を拝聴しながらホタルの出現を待ちました。定刻（？）の19時30分、周辺が暗くなると共にホタルが出現！出たーという歓声を上げながら神秘的な光と、飛び交う光の軌跡を目で追いました。

予想を超える沢山のホタルに出会えて本当に幸せな時間を過ごすことが出来ました。こんなに身近な空間に、こんなに大きな喜びを与えてくれる存在が居たなんて…。来年からはもっと大勢の人たちに声を掛けて、そして頼もしい OTASUKE 隊のご支援を仰いで、ホタル観賞会を続けてゆきたいと思えます。ご支援頂いた OTASUKE 隊の皆様有難うございました。クラブの会員一四〇名を代表してお礼を申し上げます。

みどりが丘（さわやかクラブ会長 湯瀬洋子）

